

のは全くなかった。しかし、関節痛、頭重に対しては全く効果がなかった。

考 按

日住患者にStibnal、Stimonの治療中、嘔気、嘔吐の副作用があることは諸氏の報告により30.5～66%の高率に発現をみている。大田らの報告によつても、これらの副作用は、注射後0～4時間にて現われるものが大多数を占め、一過性であるが、一度これらの副作用が現われれば以後1回の注射量を減量するか、注射間隔を延長しない限りは、注射毎にその副作用は現われ、且つ増強する傾向にある。これらは患者にとつて大きな苦痛であり、注射量の減量、又は注射間隔の延長をしては治療効果が疑わしいことは勿論である。これまで、これらの副作用の軽減の為、Bal、ハイボ、グロンサン等を使用しても見るべき効果はみられないことを経験している。

余のAstin 0.2～0.3gの頓服により嘔気、嘔吐の副作用がなく、現今のアンチモン剤の治療が継続できることは患者にとつて、又治療効果の点からも満足すべきものであると考える。本剤の嘔気、嘔吐に対する効果は中枢制吐作用によるものと考えらる。

結 語

Stibnal、Stimonにより日住患者治療にあたり、これらの薬剤の副作用、特に嘔気、嘔吐に対しAstin (2-Ethyl-cis-crotonylurea) の投与は著明な効果があつた。尚ほ今後多数例についても追試するが、Phenothiazineの製剤についても効果があるのではないかと考える。

参 考 文 献

- 1) 市田市弘：アスチンの使用経験，治療薬報，567，14～15，1959。
- 2) 大田秀浄，他：日本住血吸虫病の集団治療、特に治療剤による副作用について，臨消，5 (7)，29～33，1957。
- 3) 岡部浩洋，他：スチモンによる日本住血吸虫症の集団治療（日本住血吸虫症の治療に関する研究1），久留米医学雑誌，16 (9～12)，18～21，1953。
- 4) Most：最新寄生虫病学，VI，日本住血吸虫病の診断，杉浦三郎述より引用，医学書院発行，1953。
- 5) 守一雄，他：アスチンの内科領域における使用経験，治療薬報，566，12～13，1958。
- 6) 森甫，安藤守宣：アスチンの臨床効果について，治療薬報，569，12～13，1959。
- 7) 藤本稔：アスチンの内科的疾患に対する使用経験，治療薬報，565，12～13，1958。

15. 日本住血吸虫症と日本住血吸虫皮内反応について

大 田 秀 浄

緒 言

日本住血吸虫（以下日住と略）症の免疫学的診断法は未だ補助診断法の域を脱せず、決定的な診断法は糞便中の虫卵の検出によつてゐるが、今日の様に軽症感染者が多く、従つて虫卵数が少く、容易に虫卵が検出されない現状に於て、早期発見、治療は非常に困難であるので、皮内反応を再検討すべきである。日住の皮内反応に関してはKanら (1936)、井上ら (1941)、富永 (1940)、岡部、山口 (1952)、Hunterら (1958) の報告があり、補体結合反応に関しては藤波、中村の他多数の報告がある。又、岡部ら (1953) により、尿反応が試みられている。

今回、米軍406医学研究所寄生学部長Wolton B. C. より日本住血吸虫抗原の提供を受けたので、有病地学童に皮内反応を実施したので報告する。尚、本抗原作製法その他詳細な報告は後日 Wolton によりなされる予定であるので簡単に実験成績を報告する。

実 験 方 法

山梨県北巨摩郡韮崎市の甘利中学校学童369名、大草小学校学童268名、竜岡小学校学童311名に、前記抗原及び対照液を前膊内側に約0.03cc皮内注射し、接種後15分にあらかじめ作製してある測定板 (mm²) にて計測した。判定は丘疹を測定し、対照面積の2倍以上を陽性、2倍を疑陽性、それ以下を陰性とした。検便は接種日より3～7日の間に前者2校は米軍406医研にてMGL法により、後者は当所にてMIFC変法により実施した。

実 験 成 績

3校の検便成績及び皮内反応の成績は1表、2表に示す通りである。

1 表 検便と皮内反応成績

学校別	検便、皮内反応 被検者	検 便 日 住 卵	
		陽 性 者	陰 性 者
甘 利 中 学 校	369	43 (11.65%)	326 (88.35%)
大 草 小 学 校	268	13 (4.85%)	255 (95.15%)
竜 岡 小 学 校	311	36 (11.58%)	275 (88.42%)
計	948	92 (9.70%)	856 (90.30%)
皮 内 反 応			
+		±	—
180 (48.78%)		5 (1.36%)	184 (49.86%)
67 (25.00%)		7 (2.61%)	194 (72.39%)
74 (23.79%)		12 (3.86%)	225 (72.35%)
321 (33.86%)		24 (2.53%)	603 (63.61%)

2 表 日住卵陽性者と皮内反応との関係

検便・皮内反応 学校別	検便日住卵 陽性者	検便+ 皮内反応+	検便+ 皮内反応±	検便+ 皮内反応-
甘利中学校	43	42 (97.67%)	0	1 (2.33%)
大草小学校	13	13 (100%)	0	0
竜岡小学校	36	33 (91.67%)	0	3 (8.33%)
計	92	88 (95.65%)	0	4 (4.35%)

(皮内反応+は陽性、±は疑陽性、-陰性)

総括及び考按

- 1、山梨県北巨摩郡韭崎市の集卵法 (MGL法及びMIF C変法) による日住卵陽性者は、中学校369名中43名 (11.65%)、小学校268名中13名 (4.85%)、311名中36名 (11.58%) であり、総計948名中92名 (9.70%) であつた。
- 2、日住皮内反応の陽性者は、中学校369名中180名 (48.78%)、小学校268名中74名 (25.0%)、311名中74名 (23.79%) であつた。
- 3、日住卵陽性者中日住皮内反応陽性者は、中学校43名中42名 (97.67%)、小学校は13名中13名 (100%)、36名中33名 (91.67%) であり、日住卵陽性者中日住皮内反応陰性者は中学校43名中1名 (2.33%)、小学校13名中0、36名中3名 (8.33%) 合計92名中88名 (95.61%) であつた。
- 4、日住卵陽性者92名中皮内反応陰性者4名 (4.35%) をみたが、Woltonによれば抗原の信頼度の関係、個人差の感受性、糞便提出の信頼性によるものと考えられる。
- 5、何れにしても、日住卵陽性者92名中88名 (95.95%) の日住皮内反応陽性者をみたことは、予防医学上よりみて実用価値があり、皮内反応陽性者のみを検便することにより、日住卵検出の為の検便手数は約1/3にはぶかれるものと考えられる。

稿を終るに臨み、日本住血吸虫皮内反応抗原を提供された米軍406医学研究所寄生虫部長Wolton B. C. に感謝する。

主要参考文献

- 1) Kan, Huai-Chieh : Intracutaneous test with *Schistosoma japonicum* antigen. (A preliminary report) Chin. M. J. Suppl., 1 : 387—393, 1936.
- 2) 井上東、松原公之助、加来芳臣、渡辺良枝、曾広煌：日本住血吸虫体成分を以てする皮内反応 (仮称シスト反応) に就て、九州医専雑誌, 6 (4), 213—228, 1941.

- 3) 富永覚仁：日本住血吸虫病の皮膚反応に就て、日本寄生虫学会記事, 12, 53—54, 1940.
- 4) 岡部浩洋、山口富雄：日本住血吸虫症の免疫学的研究 (第1報), 久留米医誌, 15 (3—4), 19—23, 1952.
- 5) Hunter, G. W. et al: Immunological studies II, Intradermal tests and their Schistosomiasis japonica Paragonimiasis and Clonorchiasis, Mil. Med. 122 (2), 85—96, 1958.
- 6) Wolton, B. C.: Personal communication, 1958.

16. 山梨県における虫垂内の寄生虫

(特に虫垂粘膜搔爬による日本住血吸虫卵について)

大田 秀 浄

緒 言

山梨県における寄生虫保有率は他府県に比べて優位を示しているが、特に日本住血吸虫 (以下日住と省略) は今日尚、有病地の韭崎地区の純農においては集卵法にて267名中88名32.9%に及び、学童においても当地区中学生において380名中44名11.5%にみられる。併し、本虫の生態からみて、糞便検査のみで本症の診断は下し得ない。依つて各種検査法を総合して診断をなさねばならぬ今日である。

虫垂内の寄生虫については、先人により報告されており、日住に関しては、特に1943年米長の報告によれば、摘出虫垂282例中87例30.7%に病理組織学的に日住卵を認めたと報告され、他の寄生虫についての報告をみない。又、他の寄生虫について和田は摘出虫垂434例中42例9.7%にぎょう虫体を認め、又三谷は摘出虫垂575例中13例2.3%にぎょう虫、蛔虫5例、鞭虫1例を報告している。

余は山梨県における虫垂内の寄生虫を知る為日住をはじめ、他の寄生虫についての検索を試みた。特に虫垂内の日住卵検出の目的で、新鮮摘出虫垂の粘膜搔爬をな